

2.5.本調査と地方公共団体における実態調査

2.5.1.調査結果の比較に関する検討

(1) 検討事項・考え方

「令和2年度 子供の生活状況調査」は、現在の生活・経済状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子供の貧困対策に関連する施策の利用状況、新型コロナウイルス感染症による影響等について、国として全国的な状況把握を試行的に行ったものである。

また、「令和2年度 子供の生活状況調査」は、自治体が子供の貧困に関する実態調査を実施する際の参考として、子供・保護者向けアンケート調査の共通調査項目案及びその結果を示すという目的も踏まえて実施した。

子供の貧困に関する実態把握のための調査及び施策の検討は、地域性の違い等も踏まえて各自治体において推進されることが重要である。各自治体におかれては、当該地域の調査を、「令和2年度 子供の生活状況調査」を参考にしつつ実施するとともに、今回把握された全国的な状況を比較対象とした分析がなされることが望ましい。

このようなことを踏まえ、本報告書では、「令和2年度 子供の生活状況調査」と同様の調査項目を用いて実施された地方公共団体における実態調査をいくつか取り上げ、どのようなことが比較可能になるかの例を示すこととする⁶²。

(2) 参照した地方公共団体

内閣府「地域子供の未来応援交付金」を活用した自治体において、同様・類似の調査を行っている事例を参照した。なお、新型コロナウイルス感染症が生活状況に及ぼした影響が少なからずあると考えられたことから、令和2年度内に実施された調査を参照した。

令和2年度に内閣府「地域子供の未来応援交付金」を活用した自治体は29自治体(都道府県含む)であったが、このうち、中学2年生及びその保護者を主な対象として「令和2年度 子供の生活状況調査」と同様の調査項目で調査を実施しており、かつ、令和3年8月1日時点で調査結果の公表が確認できたのは下記の5自治体であった。

表 2-5-1-1 実態調査の結果を参照した地方公共団体の概要等

整理記号	地方	自治体の規模	調査実施時期
A	関東	町	令和3年1月実施。
B	関東	市	令和2年12月～令和3年1月実施。
C	関東	市	令和2年11月～12月実施。
D	中部	市	令和2年9月実施。
E	中国・四国、九州	県	令和2年7月～8月実施。

⁶² 比較方法・結果の例を示すものであり、各自治体の現状の良し悪しを評価するものではない。なお、各調査・項目で「無回答」であったものは集計から除いた上での数値を示した。

2.5.2.保護者の状況

(1) 婚姻の状況

保護者票問4. お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(SA)

婚姻の状況から、「ひとり親世帯」である割合を集計すると⁶³、自治体 A、B、C、D では「令和2年度 子供の生活状況調査」より低く、自治体 E では「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。

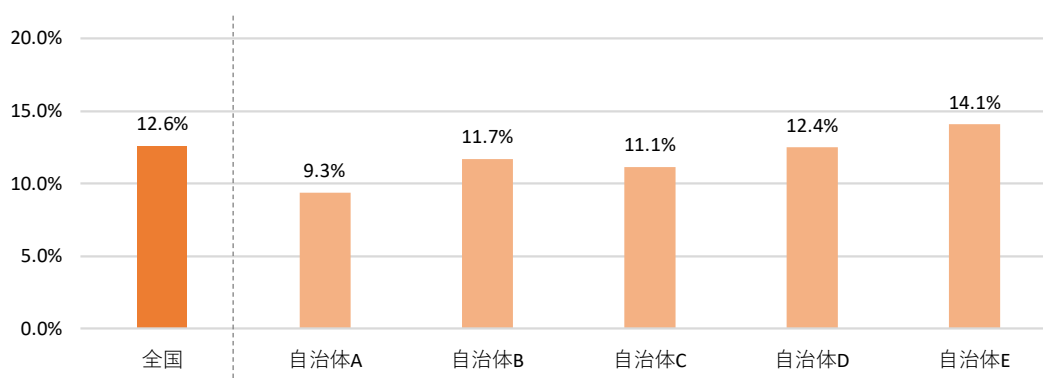


図 2-5-2-1 各実態調査における「ひとり親世帯」に該当する割合

(2) 日本語以外の言語使用

保護者票問6. ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(SA)

家庭での使用言語の状況から、「外国につながる世帯」である割合を集計すると⁶⁴、自治体 B、C、E で「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。

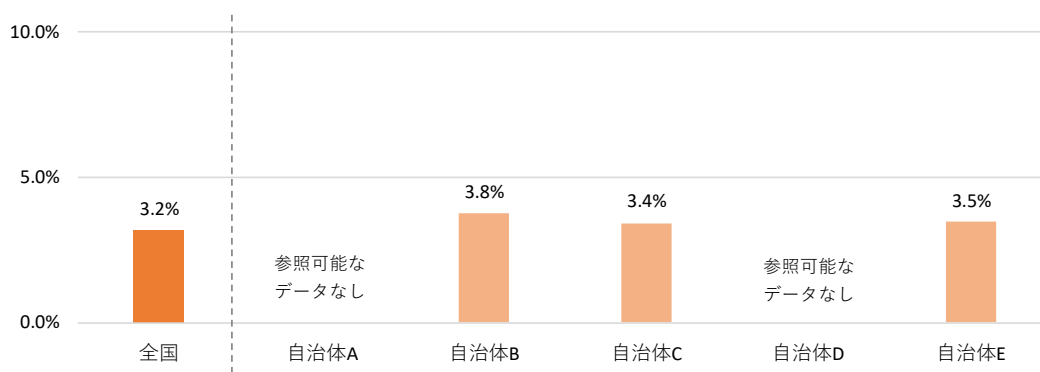


図 2-5-2-2 各実態調査における「外国につながる世帯」に該当する割合

⁶³ 「いない、わからない」及び「不明・無回答」を集計対象外とした上で、「離婚」、「死別」、「未婚」を合わせた割合を算出したもの。ただし、自治体 B は「あなたの世帯は、『ひとり親世帯』に該当しますか」として調査されており、「該当する(別居)」の回答も「ひとり親世帯」に含む。自治体 C・D についても「別居中」の回答を「ひとり親世帯」に含む。

⁶⁴ 「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」と「日本語以外の言語を使うことが多い」を合わせた割合。自治体 A・D では同一・類似の調査項目が設定されていない。

(3) 食料が買えなかった経験、衣服が買えなかった経験

保護者票問19. あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(SA)

保護者票問20. あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(SA)

過去1年間に必要とする食料が買えなかった経験に関して、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」、「まったくなかった」の4つの選択肢による回答のうち、「よくあった」、「ときどきあった」を合わせた割合⁶⁵を集計すると、自治体A、Eでは「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。

同様に、過去1年間に必要とする衣服が買えなかった経験に関して、「よくあった」、「ときどきあった」を合わせた割合を集計すると、「食料」に関するほどの違いはみられないが、自治体Eでは「令和2年度 子供の生活状況調査」より若干高くなっている。

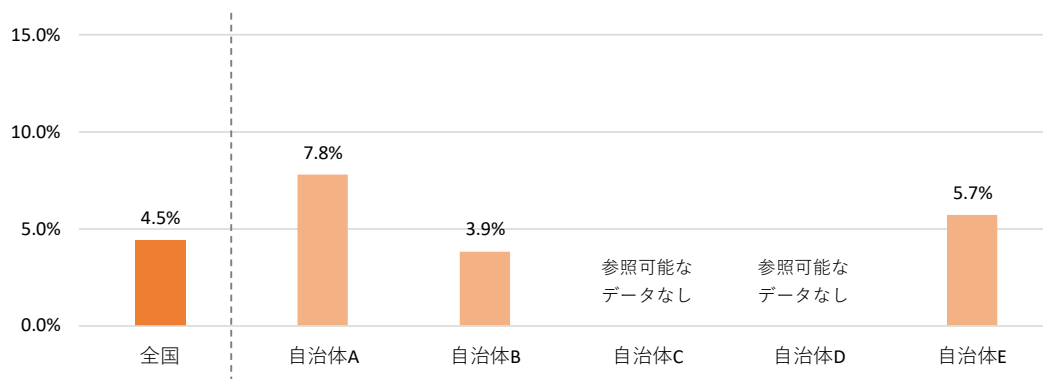


図 2-5-2-3 各実態調査における食料が買えなかった経験
 (「よくあった」と「ときどきあった」)の割合

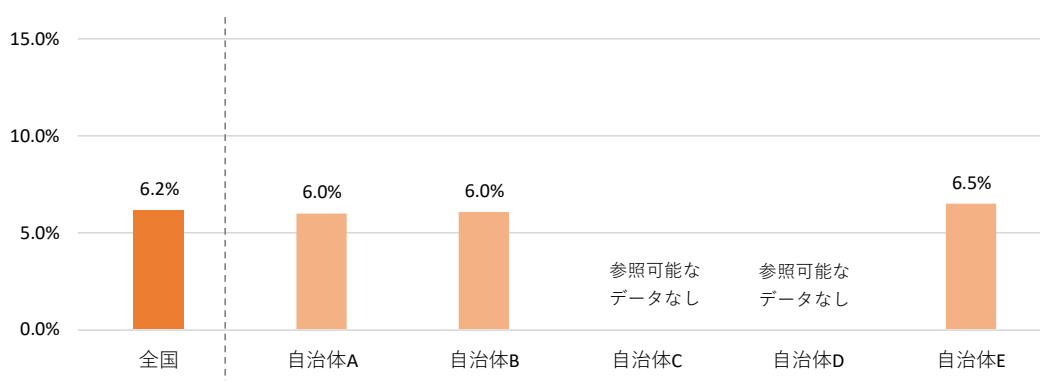


図 2-5-2-4 各実態調査における衣服が買えなかった経験
 (「よくあった」と「ときどきあった」)の割合

⁶⁵ 自治体Bは「よくあった」、「ときどきあった」、「ほとんどなかった」、「まったくなかった」の選択肢のうち、「よくあった」、「ときどきあった」を合わせた割合。自治体C・Dは類似の調査項目は設定されているが、同様の方法で結果を示すことは困難であった。「衣服」に関しても同様である。

2.5.3.子供の状況

(1) 授業の理解状況

中学生票問5. あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(SA)

学校の授業の理解状況を見ると、「わからないことが多い」又は「ほとんどわからない」の割合はいずれの自治体も「令和2年度 子供の生活状況調査」より低くなっているが、自治体 A では「教科によってはわからないことがある」の割合が「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。

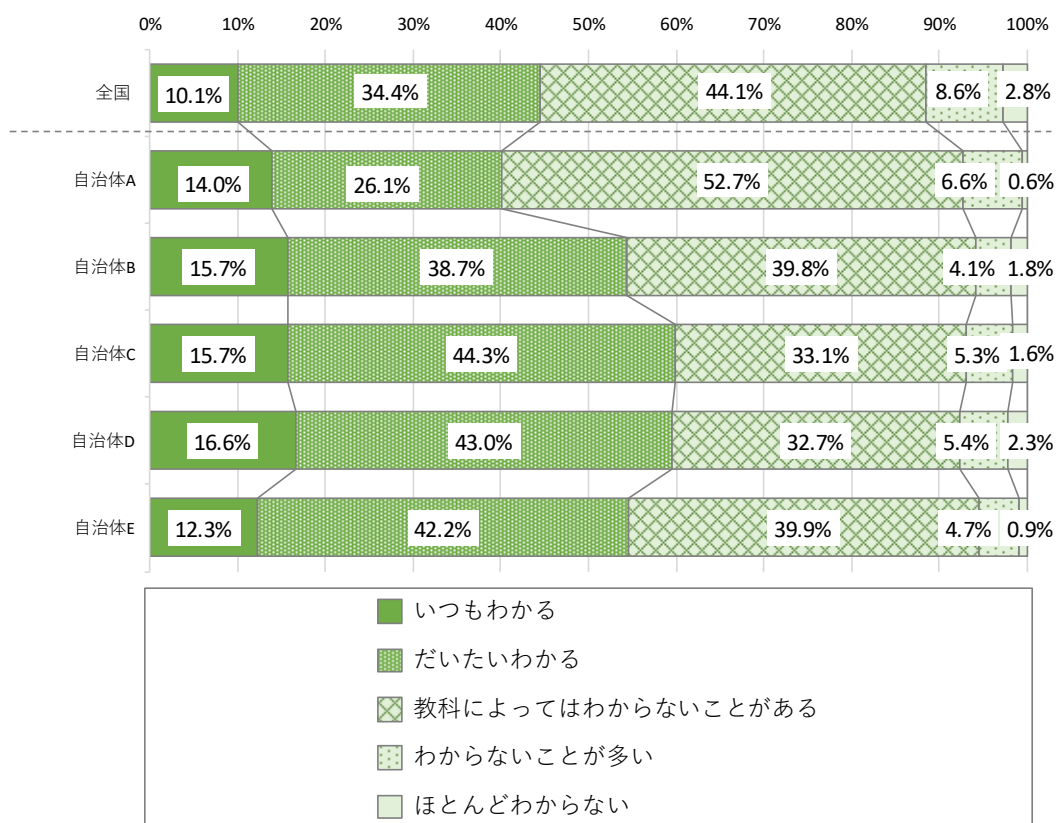


図 2-5-3-1 各実態調査における授業の理解状況

(2) 1日あたりの勉強時間

中学生票問3. あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。(SA)

学校がある日(月～金曜日)の学校の授業以外での1日あたりの勉強時間をみると⁶⁶、「まったくしない」の割合は、自治体 B、C で「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。他方、「2時間以上」の割合も、自治体 B、C では「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。また、「1時間以上」の割合に着目すると、自治体 B、C に加えて、自治体 E で「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。

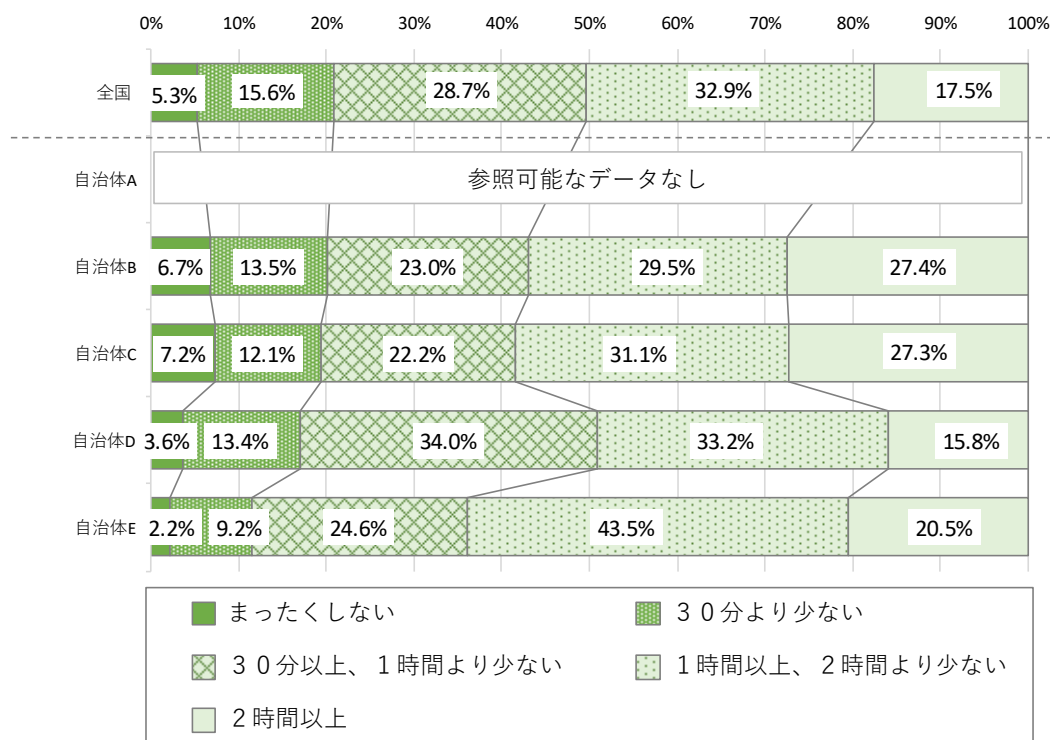


図 2-5-3-2 各実態調査における学校の授業以外の1日あたりの勉強時間(学校がある日)

⁶⁶ 自治体 A では同一・類似の調査項目が設定されていない。

(3) 進学したいと思う教育段階

中学生票問7. あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(SA)

将来どの段階まで進学したいかをみると⁶⁷、自治体 B、C では「大学またはそれ以上」の割合が「令和2年度子供の生活状況調査」より高くなっている。自治体 D、E では「高校まで」や「短大・高専・専門学校まで」の割合が「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。

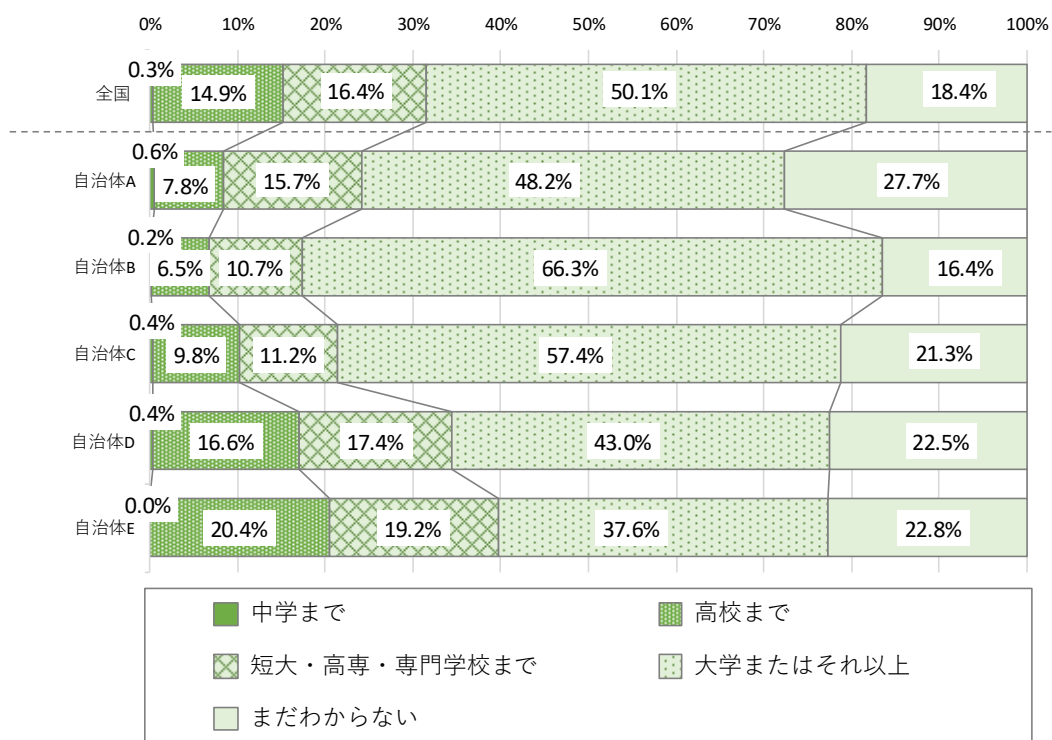


図 2-5-3-3 各実態調査における進学したいと思う教育段階

⁶⁷ 自治体 D では「今の時点で、将来どの学校まで進みたいと思いますか」という設問で、「大学またはそれ以上」の選択肢のところは「大学・大学院まで」の選択肢で調査がされている。また、自治体 E では「短大・高専・専門学校まで」の選択肢のところは「短期大学・専門学校まで」の選択肢で、「大学またはそれ以上」の選択肢のところは「大学・大学院まで」の選択肢で調査がされている。

(4) 食事の状況（朝食）

中学生票問11. あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(SA)

朝食に関する状況を見ると⁶⁸、自治体 C では毎日食べるとの割合が「令和2年度 子供の生活状況調査」より低く、自治体 B、D、E では「令和2年度 子供の生活状況調査」より高くなっている。

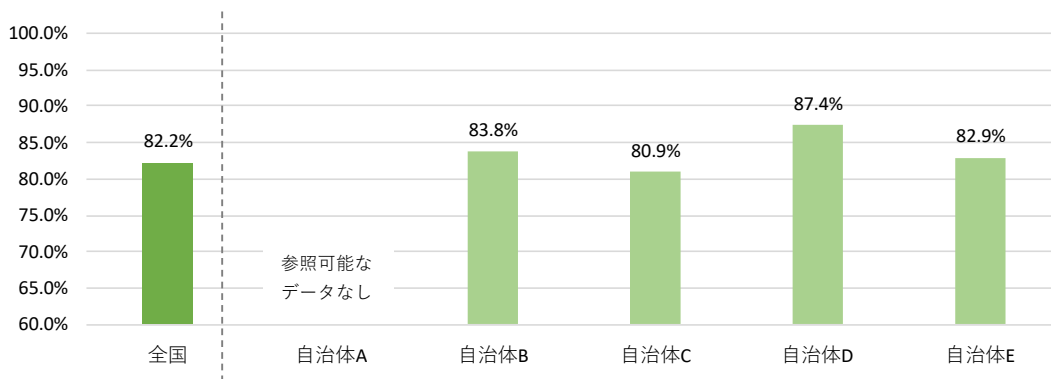


図 2-5-3-4 各実態調査における食事の状況（朝食を毎日食べる割合）

⁶⁸ 自治体 A では同一・類似の調査項目が設定されていない。自治体 C では「毎日食べた」、「週に5、6日は食べた」、「週に3、4日は食べた」、「週に1、2日は食べた」の選択肢で回答が得られたもののうち、「毎日食べた」の割合。自治体 E では「毎日食べている(週に7日食べている)」、「ほとんど毎日食べている(週に5～6日食べている)」、「半分くらいは食べている(週3～4日食べている)」、「ほとんど食べない(週1～2日食べている)」の選択肢で回答が得られたもののうち、「毎日食べている(週に7日食べている)」の割合。

